

ジョグトリ新聞

発行者 責任者
(社)ジョグトリップ
理事長 網本裕之

ね！ユーチューブはじめました！
ワクワク系あみりんワールド

あみりん、ユーチューブはじめました！
きっかけはVoiceというアイフォンアプリでした。様々な分野の人たちが音声でそれぞれの思いや考えをアップするメディアです。これを聴いていて、あみりんも何かを声で伝えられないか？と思いついたんです。最初に取り掛かったのが、Voiceという新しいブログサービス。このサービスはテキストメインなんですが、音声も掲載できます。で、ここに言いたいことなんかをアップしてなんですが、5分間という時間制限がありましてなかなか最後まで話終わらない。

ところがこの「ワクワク系あみりんワールド」のチャンネル登録

ウメの思い出話

私の17歳のノートから

それならば、ということで大御所ユーチューブがよかろう！ということになったわけです。最初の収録は去年の12月25日。顔出し映像配信スタートです。第一回目のお題は「いなかに住んでて本物に触れる！」で、それ以来、できるだけ毎日午前中にアップしてます。初めの数回は薄い色の眼鏡をかけてました。が、目の表情が分からないと指摘され裸眼をさらすことに。また、途中からチョークボード（いわゆる黒板）を使って、学校の先生みたいにやっています。

者数が増えない！
まあ中身に多大な欠陥があるのかもしれないが、ちと寂しい。ということ、皆様方に最後の？お願いに参りました。なにとぞ、あみりんへ清き一票を！伏して願います。

この文章は昭和55年9月に17歳の私がノートに残していたものです。稚拙な文章ですが、ほぼそのままここに掲載することにします。私も既に57歳となり、身内の死に直面したり、思いをはせることも多くなりました。ウメ、そのうちにオレもそっちに行くから待っててね！
今日、ウメの命日だったので、数人と誘い合って彼の墓参りに出かけた。ウメは暑い九月、水着を取りに帰っている途中、交通事故

夕刻、ウメの家の前に着いた。その時、向かいの道から同じくウメの家に行くグループと出会った。聞くと、彼らはすでに墓参りは済ませたそう。それで私たちもお墓から先に参ることにした。彼の墓は家の上方にある道を少し行った所に曲がり、夕刻の蟬の声だけやかましい、深々とした山道に入る。ウメの墓はすぐそこである。いくつかある中

で、彼の墓は小さく作られている。私たちが水をかけ、手を合わせ拝んだ。友がウメの昔話をした。懐かしくなった。それから、ウメの家に行った。仏壇の前に行って線香を上げ、正座してウメの冥福を祈った。茶の間に入ると、他の十人ほどの友人が別に来ていた。ウメのお母さんがサイダーを出してくれた。私たちがそれを飲んでみると、彼女が涙声で「みなさん、本当にありがとうございました」と言っていた。私は頭を下げた。つしやる彼女を見ていた。何も言えなかった。ただ「ああ」と思った。彼女は長いこと頭を伏せ声を詰まらせ泣いていた。私たちは苦しい気持ちになった。私はふと、彼女の顔を見た。皺だらけの顔の細かい目が赤く腫れ上がり、涙のしずくが眼のふちを濡らしている。私は見てはいけな

た、と思った。それから私は顔を伏せた。私は思った。ウメの分までオレはやらなければならぬ。ウメの生きえなかつた分まで。ウメのおかあさんの涙はなんであるのか。それはウメの、私たちと同じ年代の姿を見ることのできなかつたという、残念の思いではなかつたか。そして、自分の息子の役割を同時代の私たちに負わせてくれる熱い涙ではなかつたか。私はふと、ウメが死ぬ少し前に見た不思議な夢を思い出した。私とウメは、中学校の下足室の前に向かい合って立っていた。すると、ウメの顔が急に上から下へ青白い色に変わっていった。ただそれだけの夢であつた。背筋に何かが走る夢だった。ウメとの再会を期して、あみりん57歳の春に